

- ✔ 令和7年度予算の成立
- ✔ 政策解説：エネルギー基本計画など
- ✔ 外交分野での活動



無事、年度内に令和7年度予算が成立しました。先に衆議院で修正可決した予算案ですが、参議院で再び修正議決されたため、衆議院に戻され（これを「回付」といいます）再度議決されるという、現行憲法下では初となる異例の成立となりました。今回の予算案の修正は、高額療養費の負担増を巡って与野党での意見が分かれ、結果的に負担増を見送った事などによるものです。



現在、与党が過半数を取れない少数与党という状況なので、このように綱渡りの国会運営が続くこととなります。より丁寧な説明が必要なことは大前提ですが、野党の意見でも可能な限り取り入れ、少しでも政策を前に進めていく必要があります。いずれにしても予算が遅延なく成立したことで、自治体などに、ご迷惑を掛けずに予算を執行することができます。今後も引き続き、各種法案の成立や政策課題の解決に向けて、きめ細かな対応を心がけて丁寧に取り組んで参ります。

質疑への答弁にも立っています

衆議院では法案の審議もスタートしておりますので、経済産業副大臣として私も答弁に立っています。基本的には、経済産業委員会などでは大臣が答弁に立ちますが、他の委員会で政務（大臣、副大臣、政務官のいずれか）の答弁が求められた場合などは、副大臣の私が答弁対応することが多くなります。質問数が多い場合や、問いが多岐に渡る場合は、政府参考人（経産省の担当官）などと分担しながら答弁に当たります。これまでも答弁をかなりの回数して参りましたので、臨機応変に質疑者の意図を汲みながら、わかりやすく答えるように心がけています。また、本会議場で大臣が答弁に立つ場合は、答弁内容に漏れや言い間違いなどが無いのか、チェックをするのも副大臣の大切な公務になっています。



市長選挙等の結果を受けて

去る4月13日投開票の伊丹市長選挙におきましては、これまで県会議員を務めた中田慎也候補が当選を果たすことができました。藤原保幸前市長の蓄積を受け継ぎながら新たな市政に期待したいと思います。私も引き続き国政の立場から連携して、伊丹市の抱える地域の課題に取り組んで参ります。



中田新伊丹市長に期待

同日には宝塚市長選挙も実施されました。支援させて頂いた大川裕之候補は一步及ばず残念な結果になりました。また宝塚市議補欠選挙でも梅脇しげよし候補があと少しのところまで当選となりませんでした。頂いたご支援を無駄にすることなく、引き続き宝塚市の発展のために力を尽くして参ります。

大串まさきプロフィール

デジタル副大臣、経済産業大臣政務官  
自民党 厚生労働部会長、副幹事長などを歴任

- ▶ 昭和41年生まれ。報徳学園高卒。東北大学大学院修了。IH1、松下政経塾を経てJAISTにて博士（知識科学）を取得。大学准教授の後に現職（5期）。
- ▶ 社会保障・産業政策・デジタル改革等の分野に注力。
- ▶ 家族は妻と2人暮らし+保護猫1匹（三毛猫）。趣味は釣り・絵画・多肉植物など。スポーツは高校まで剣道一筋。好きな食べ物はカレーとラーメン。座右の銘は「威ありて猛からず」。

お問い合わせ先

自民党の党员になって応援して頂ける方、ボランティアとしてお手伝い頂ける方、国政報告会への参加を希望される方など、お問い合わせは下記までお願い致します。

〒664 兵庫県伊丹市中央 1-2-6  
-0851 グランドハイツコーワ 2-12  
TEL:072-773-7601  
FAX:072-773-7602

✉ info@m-ogushi.com



動画を配信中！

政策の解説からプライベートまで気軽に見られる動画を「X」「Instagram」「YouTube」で配信しています。右のQRコードからフォローしてください。



## 政策解説：エネルギー基本計画など

経済産業副大臣として取り組んでいる政策課題は多々ありますが、最近、特に注目を集めている政策について解説します。

### エネルギー基本計画

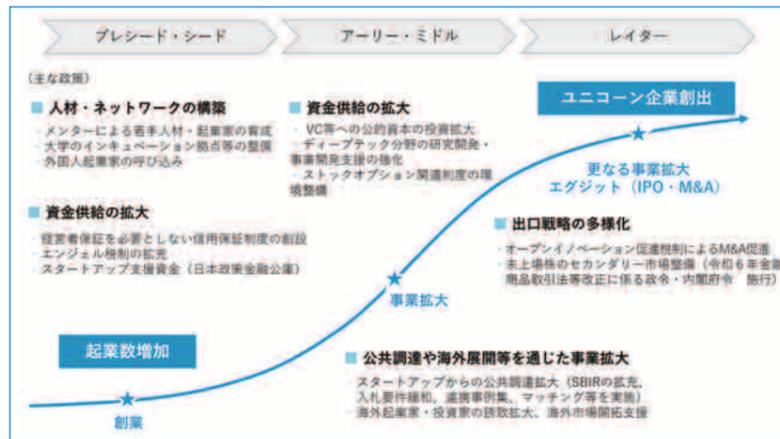
第7次エネルギー基本計画が閣議決定（令和7年2月）されました。日本のエネルギー需給に関する施策の長期的、総合的かつ計画的な推進をはかるための計画を定めるものです。国内外の情勢変化を踏まえた上で、**安定供給**と**脱炭素化**などを進めていく上で大変重要な計画です。基本原則の**S+3E**※は、これまで通り堅持されています。今回は、特に「再生可能エネルギーや原子力などの脱炭素電源を最大限活用する」という表現に注目が集まりました。

2040年の電源構成の見通しでは、**再生可能エネルギー**で4～5割、**原子力**で2割、**火力**で3～4割程度として、73%の温室効果ガスを削減します。脱炭素投資を促す「**GX2040ビジョン**」や温室効果ガス削減に向けた「**地球温暖化対策計画**」と一体的に取り組みます。

※S+3E：安全性 Safety, 安定供給 Energy Security, 経済効率性 Economic Efficiency, 環境適合性 Environment

### スタートアップ支援

以前はベンチャーと言われていた新興の企業を、最近ではスタートアップと呼ぶことが一般的になりつつあります。新分野へのチャレンジも多く、日本経済を文字通り成長させる鍵になります。特に、若手の起業家も多く、近年では大学発のスタートアップも一般的になりつつあります。政策的には「**スタートアップ育成5か年計画**」を策定して後押ししています。主に**人材・資金・事業の3つの柱**に沿って各施策を総動員してステージに応じた支援を展開しています。



スタートアップの起業数増加、規模の拡大を大きな目標にして、ステージ毎の支援を展開

### ローカルゼブラ企業

事業を通じて**地域課題解決**をはかり、**社会的インパクト**（良い変化）を創出しながら、収益を確保する企業をローカルゼブラ企業といい近年注目されています。時価総額を重視し世界で活躍する**ユニコーン企業**と対比させて、社会課題解決と経済成長の両立を目指す企業を白黒模様・群れで行動するゼブラ（シマウマ）に例えて命名されました。NPOと異なり収益性を重視することから企業としても持続可能性が高いのが特徴です。創業期から成長期のそれぞれの段階での資金調達や人材の獲得など課題解決のための伴走型支援に取り組んでいます。これは政府の「**新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画**」（2023年閣議決定）にも明記されています。

## 外交分野での活動

政府の一員として外交は重要な任務です。交渉には経験も必要ですが、相手国の事情や過去の経緯などの様々な要素を考慮した上で議論がスタートします。友好議員連盟などの議員外交とは異なり、国益をかけた緊張感のある議論・交渉になります。

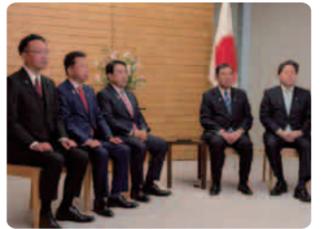
### 日中ハイレベル経済対話

中国は政治体制の違いもありますが、経済的な強さ（マーケットの規模）や**資源依存**など日本にとって不利な条件が多い相手です。3月に開催された6回目となる日中ハイレベル経済対話には、私も経済産業省を代表して**岩屋外務大臣**と共に出席しました。中国側は**王毅（おうき）外交部長**（外務大臣）を筆頭に各部門の責任者が出席しました。議論は日中経済関係の広範な課題に及びましたが、私からは（既に安全が確認済の）ALPS処理水の海洋放出に伴う**日本の水産物の輸入規制の撤廃**などを強く求めました。最終的に協力できる分野では、さらなる協力関係の強化と共に、懸案についても対話を継続していくことを確認しました。今回の経験を生かしながら、今後も国益に資する強い外交を進めて参ります。



### 米国の関税措置に関する総合対策

米国による鉄鋼・アルミ製品、自動車に対する25%の追加関税や**相互関税**※など、新たに課せられた関税措置に対して、政府は赤澤大臣をヘッドに「**交渉チーム**」を設置しました。私もそのメンバーに任命され、官邸内に設置されたタスクフォースの議長代理に就任しました。日本経済の命運をかけた重要な任務となります。米国側からの貿易赤字解消のための要求は多岐に渡り、難しい交渉となることが予想されています。特にトランプ大統領の考え方は、従来の常識が通用しない場面も多々あります。各省庁の情報収集を徹底しつつ、自民党の対米交渉経験者の意見も参考にしながら対応して参ります。



※全ての国に発動された10%の追加関税+日本に対する14%の上乗せ税率ですが、発動と同日、上乗せ税率分は90日間の一時停止を発表（中国は除く）しています。

### 編集後記

副大臣としては経産省の公務が優先ですが、これまで関わってきた厚生労働関係の政策のフォローアップや、新たに米国の関税措置への対応も加わり、今まで以上に多忙な日々です。昔から仕事の依頼が多く、エンジニア時代も

大学教員時代も、複数の上司がいて仕事を掛け持ちすることが多かったのを思い出します。それでも期待されることはありがたいことなので、精一杯、頑張っ、結果を出そうと思います。万博もスタートしましたが、社会が明るい雰囲気になることを期待します。